

# こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地域の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として気象庁が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

## 梅雨入り・梅雨明け

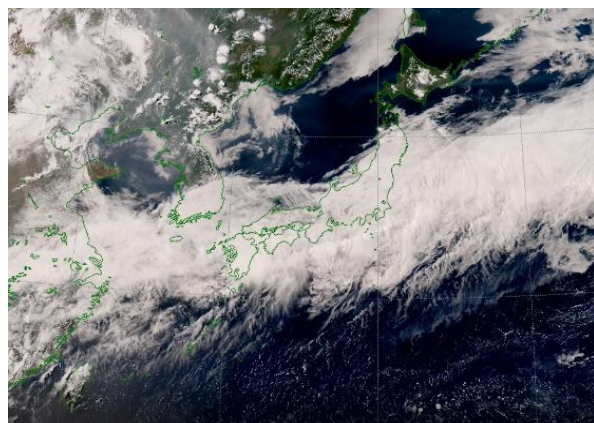
今年も梅雨の季節となりました。気分的にも鬱陶しく、傘を持ちあるかなければならない、嫌な厄介な季節だと感じる方も少なくないでしょう。私たち日本人にとって、梅雨入り(明け)は大きな関心事であることから、マスコミから“今日、梅雨入り(明け)しました”とか、“今日、梅雨入り(明け)宣言”がありましたとか、特定の日を示してよく報じられます。

一方、これらの情報源になっている気象庁の“梅雨に関するお知らせ”では、“関東甲信地方は、〇月〇日ごろに梅雨入りしたと見られます”となっていて、かなり曖昧な表現です。

梅雨は、晩春から夏にかけて雨や曇りの日が多く現れる現象・期間です。雨の日が多く、日々の生活にも様々な影響を与え、社会的にも関心が高いことから、気象庁は、それまでの天候の経過と1週間ほど先までの見通しを基に、速報として“梅雨入り(明け)”のお知らせを発表しています。梅雨の入り(明け)には、平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間があります。

梅雨の現象を、冷たく湿ったシベリア高気圧と暖かく湿った太平洋高気圧とのせめぎ合いで出来る梅雨前線に伴うものとして説明されることがあります。東日本に住んでいる私たちにとっては、この説明が理解しやすいのですが、梅雨の現象はもっともっと大きなスケールで起きています。

北半球を取り巻く偏西風(ジェット気流)は西から東に吹き、その強風軸は、冬季は日本より南の低緯度にありますが、季節が進むにつれて北上し、夏季には日本のはるか北に位置します。この強風軸が北上してゆく途中で、チベット高原によって流れが分断されたり、大きく蛇行する時期があります。梅雨の現象はこのときに起き、日本付近に梅雨前線を停滞させます。強風軸の大きな蛇行によって出来る大気の淀みによってオホーツク海高気圧が勢力を増すのもその一つです。秋になって強風軸が南下するときにも同様な現象が起き、日本付近に秋雨前線を停滞させますが、梅雨前線ほどの規模・期間ではありません。



中国大陸から日本のはるか東海上まで伸びる梅雨前線に伴う雲域

2016年6月28日 出典:気象庁HP

梅雨を春夏秋冬に加え、5番目の季節として捉えるのが妥当です。冬が終わり“今日から春です”というのは難しいように、“今日から梅雨です”と言い切るのはなかなか難しいのが現状で、気象庁が速報する“お知らせ”の中に、“ごろ”や“見られます”が用いられている理由でもあります。日本人の敏感な季節感による梅雨入り(明け)と、北半球の1/3ほどの規模で起きる現象から判断できる梅雨入り(明け)とでは、時間的スケールに大きな隔りがあるように思います。梅雨入りとともに出水期を迎えます、大雨に対する注意・警戒が必要となります。

問い合わせ先  
危機管理課災害対策係 電話 2274